

登別地域の観光資源を満喫

～首都圏からのモニターツアー～

2月18日(日)から、首都圏からのモニターツアー『暮らすように旅する！登別温泉6泊7日』『ちょっぴり体験登別温泉3日間』（市、登別市産業クラスター形成協議会、登別商工会議所共催）が行われ、参加者26人が登別地域の体験型・長期滞在型観光を満喫しました。

このツアーは、地域資源を活用した観光プログラムや長期滞在者向けのサービスを試行的に提供することで、旅行者のニーズや評価を把握し、今後の事業化に役立てようといわれたもので、7日間コースは登別市産業クラスター形成協議会が国土交通省『観光みらいプロジェクト事業』の採択を受けて、3日間コースは登別商工会議所が中小企業庁『小規模事業者新事業全国展開支援事業』の採択を受けて実施しました。

ツアーでは、地元ガイドの案内で登別温泉地獄谷や大湯沼川探勝歩道にある天然の足湯などの見学、ばん馬ソリの試乗、いぶり中央漁業協同組合登別地区女性部の協力による、地元産の昆布でだしをとったスケソウの三平汁が振る舞われた『浜のかあちゃん昼食会』などが行われました。

また、宿泊している施設以外の温泉を体験できるサービスや地場食材を活用した料理を市内飲食店で味わえるクーポンを発行し、宿泊と食事を分けたサービスを試行したほか、室蘭市や白老町の観光資源を体験するプログラムを設定するなど、広域観光の可能性も探りました。



▲浜のかあちゃん昼食会

鉾山町で見つけた春の息吹



～歩くスキー～

3月11日(日)、残り少ない冬の鉾山町で今シーズン最後の歩くスキー（NPO法人モモンガくらぶ主催）が行われ、小学生から高齢者までの15人が参加しました。

この日は、暖かく雪質は若干固めの中、はじめに準備体操で体をほぐしてから不動の滝方面を目指して元気に出発。途中でシカやウサギなどの足跡や越冬する動物が木の皮を食べた跡を見つけながら、歩くスキーを楽しみました。

参加者は、初心者からベテランまでさわやかな汗をかきながら、小さくふくらんだフキノトウを見つけては春の訪れを待ちわびていました。

卒業生であることを誇りに思っ

～北海道登別高等学校閉校式～

3月3日(土)、登別高等学校閉校式が体育館で行われ、歴代教職員や卒業生など約240人が出席し、閉校を惜しみつつ母校に別れを告げました。

閉校式では、**棚田徹**校長が「学校を支えてくれた歴代教職員や地域の方がたに感謝します」と式辞を述べ、**石川義浩**定時制生徒会長が「伝統ある登別高校定時制の卒業生であることを誇りに思っています」、**齋藤麻未**全日制生徒会長が「この学校で3年間学んだことをこれからの人生に生かして頑張りたいと思います」と惜別の言葉を述べました。

同校は、昭和23年に道立室蘭高等学校幌別分校定時制課程普通科として開校し、昭和38年に全日制と定時制を併設した町立登別高校となり、昭和40年に道に移管。平成16年度に定時制が、平成17年度に登別南高校との再編統合により全日制が募集停止となりました。これまでに卒業生は約9,000人を数えます。



▲石川さん



▲齋藤さん